

昭和31年の初めの頃は、 お米の配達もまだ馬車でした

西地区で子どもを育てながら、まちの移り変わりを見つめてきた3名が、老舗喫茶『珈琲館 Barbizon (ばるびぞん)』で女子トーク。今では考えられない、西屯田通でのエピソードにびっくり。

西連合町内会 女性部長 金澤 邦子 × 菊池 以久子 × 大原 政子

—この地区の昔の風景について教えてください。

大原(右):西地区は、今は祭典区の当番から外れましたけど、昔一度だけ北海道神宮例祭の当番をしたことがあります。その時、西屯田通を御神輿が通ったのよね。

菊池(中):私、その時お稚児さんをしました。お祭りと言えば子どもの頃、北海道神宮例祭の一月くらい前になると、家の斜め向かいにある田中豊店から笛や太鼓の音が聴こえてきていた。そこで練習をしていたんですね。その音を聴くと、もう少しでお祭りだなんてウキウキしていたなあ。

大原:西屯田通の夏のお祭りは今でも続いていますけど、昔はあんな風じゃなかったんですよ。西屯田通にある商店が、自分たちで店を出していたんです。元々は、お客さんにお礼をするために始まったものでしたから。だんだん商店がなくなってきたので、今の形になりましたけど。この珈琲館 Barbizon は古くからありますね。うちがまだお米屋さんをしていた頃、お得意さんだったんです。

金澤(左):私の住んでいるところは、西地区の中でも一番西側で、辺りは住宅街。市電の通りより東側は商店街もあって、同じ地区でも雰囲気が違う。西側は親の代から住んでいる人が多くて、今二代目になったかなという感じです。

菊池:金澤さんのところは幌西地区との境目くらいですよ。電車通りから東側は、昔は下町っぽかった。車も全然通らなかったので、私はいつも西屯田通で遊んでいました。ごぎを敷いておまごごとをしたりして。

大原:車の通りはなかったですね。私はこちらに来た昭和31年の初めの頃は、お米の配達もまだ馬車でしたから。そのうち

トラックになりましたけど。

—大原さんのご主人は、生前、町内会長をなさっていたと聞きました。

大原:主人の親の代から、町内会の仕事には携わっていました。やっぱり商売をしていたので、その恩返しと思って。私はその代わりずっと店番をしていたので、あまり外のことは知らないんです。電話で注文を受

けるので、顔を見たことのないお客さんがたくさんいて。銭湯などに行くと、話している人の声で誰かがわかる(笑)。

金澤:町内会とか昔の近所付き合いって、やっぱり良かったですよね。女性部の活動でもイベントを企画して、少しずつ顔見知りを増やしていこうと思っていて。もう10年くらいになりますけど、だんだん旅行などの参加者も増えてきました。あと、中央区の子育て支援ボランティアでは、二条小学校で5年生を対象に「命の学習」という取り組みをしています。お母さんと赤ちゃんを呼んで、子どもたちに実際にふれあってもらいます。

菊池:子どもたちが、なかなか抱っこできないんだよね。それで女性部のボランティアが、抱き方を教えてあげて。

金澤:子どもたちがおもちやで笑わせようとしていたり、あやしたり。かわいいですよ。半年後に同じ赤ちゃんに来てもらって、今度はお誕生会をする。赤ちゃんの成長の早さには、子どもたちも私たちが驚かされますよ。この取り組みをするようになってから、赤ちゃんを抱いているお母さんから挨拶されるようになって、すごくうれしい。



—子どもができると、地域のことを意識するものですか?

菊池:それはあるかもしれない。子どもを遊ばせに行くのでも、全く知っている人がいない場所だと不安でしょう?やっぱり子どもができると、町内のことにも何らかの形で携わるようになるかも。若い人からすると、町内会って年寄りのイメージがあるのか、敬遠されがちですけど……でも身近なところを知っている人がいると、何かあった時に心強い。

金澤:先輩方はいろいろ経験されてきているので、教えてもらうことも多いですよ。私、今日の取材も「大原さんがいるから大丈夫」と思って来ましたもん(笑)。

—最後にまちへの想いをお願いします。

菊池:西屯田通の南3条から南6条にかけては、町内会で街路灯を設置しているんです。デザインも昔のすずらん灯に似ていて、他の場所に比べると断然明るい。あの街路灯は、ずっと残していけるといいなと思っています。

大原:この地区をもう何十年も見っていますが、だんだんなくなっていくもの多くて。町内会のことも、いろいろ難しいことが多いけど、若い人にぜひ頑張ってもらいたいです。

金澤:私はやっぱり、人が集える場をどんどん作って仲間を増やしたい。そうしてみんなで地域の活動をできるような雰囲気を作って、温かいまちにできればと思っています。

お問い合わせ先 ★ 西まちづくりセンター/札幌市中央区南6条西13丁目4-28 TEL 011-561-7124 8:45~17:15

珈琲館 Barbizon に飾ってある絵を描いた作家さんに、撮影前に皆様が偶然お会いしたらしく、その話題でも盛り上がりました。

※ここに掲載できなかった取材時のお話は以下のアドレスで聞くことができます。

http://www.sora43.jp/sound/machi/vol_74.mp3